

親戚が大工業を営んでいたため、学生時代は長い休みになると建築現場でアルバイトをしていました。汗を流しながらものづくりに関わるのが楽しく、将来は自分も大工になる夢を描いていました。父親の考えもあり、同じ建設業界でも企業に勤める道を探すことになりました。

そうして大林道路に入社し、最初に配属された大阪試験所（現西日本試験室）では5年間、アスファルト合材の配合設計や品質管理などを担当しました。入社時から現場勤務を希望していましたが、試験所で3年目を迎えたころから「もう現場勤務は無理かな」と諦めつつありました。

## 宮原 道浩氏

### 大林道路 取締役専務執行役員

そんなある日、大阪試験所と同じ建物にあった工事事務所の所長が、新たに受注した大規模造成工事の担当になるという話を聞き、これは最後のチャンスかもしれないと意を決し、所長に「現場に私を呼んでほしい」と直接お願いしました。この要望は通りましたが、大阪試験所の手前、造成工事における試験担当という役割で現場へ異動することになりました。

現場に出ると、実際の担当は施工管理でした。現場では、私より早く配属されていた後輩たちが業務をテキパキとこなす姿に圧倒され、悔しさと焦りを感じたものです。ところが、この工事は地元の反対で一時中断とな

## 自他共栄の精神を忘れずに



長が「しんどいんか？ 頑張ってくれや、もう少しやないか」と声を掛けてくれました。その一言が胸に染み、「人に見てもらえていると感じるだけで頑張れる」と実感しました。それ以来、私はどんな立場になっても、現場で一人一人に声を掛けるよう心掛けてきました。

われわれの仕事は、ま



新入社員研修の現場で  
(前列左から4人目)

ね、発注者や会社から信頼を得ることで、次に大型工事というチャンスが得られるものです。忙しく、敵しくもありますが、その中に楽しみとやりがいを見つけ、それぞれの立場で目標を持ってほしい。そして、仲間と成長し合う「自他共栄」の精神を忘れずにいてほしいと思います。失敗しても悩んでもいい。そこで踏ん張った経験は、必ず将来の糧になります。一人一人の挑戦が、未来を支える力になります。

(みやはり・みちひろ)  
1982年鹿児島県立薩南工業高校土木科卒、大林道路入社。大阪支店大阪北営業所長、本店工務部副部長、執行役員本店工務部長、常務執行役員東北支店長などを経て、2025年4月から現職。鹿児島県出身、61歳。

ひと×交差点

Human×Intersection

